

(1)

・  
□

中將御覽  
はく衛門

大さか

・  
中  
□

□

□  
6

141×27×7 011

(2)

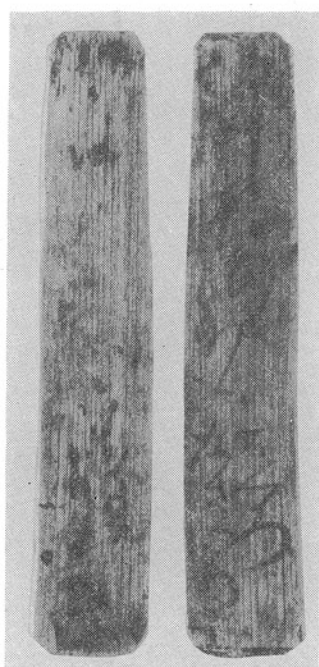
「遠  
□

〔石カ〕

ます一つ垣□右衛門尉

327×30×4 051

(1)には中將と見えるが、伏見城の存続した期間に中將の官職を授けられていた武將は、井伊直孝、織田信雄、佐竹義宣、島津家久の四人である。  
(原山充志)



(1)

## 大阪・西ノ辻遺跡

- 1 所在地 大阪府東大阪市西石切町
- 2 調査期間 一九八五年（昭60）一〇月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 西口陽一・宮崎泰史
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西ノ辻遺跡は、生駒山西麓に位置する中位段丘上の旧石器時代以来の複合遺跡である。一九八〇年より国道三〇八号線拡幅及び東大



(大阪東北部)

阪生駒電鉄敷設工事に先立って、大阪府教育委員会・東大阪市教育局・財東大阪文化財協会が共同で地区を分割して発掘調査を実施してきている。

木簡が出土した遺構は、いずれも井戸である。(1)の木簡は、径二・三m、深さ



- (1) 「昔蘇民将来之子孫也」  
120×(25)×4 032
- (2) 「九ノ八十一」  
172×21×3 032

二・七mのいびつな五角形の素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、平安時代末～鎌倉時代初期の瓦器塊・土師皿・羽釜・軒丸瓦・曲物桶等があり、木簡は拳大の石と共に投棄されていた土器群中の下二〇cmから単独で出土した。

(2)の木簡は、径一・三m、深さ二・五mの円形素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、南北朝時代の瓦質羽釜・すり鉢・常滑甕・青磁碗・軒平瓦・木椀・カメの甲羅・コウベモグラの骨等があり、木簡は人頭大の石と共に投棄されていた土器群中の下四〇cmから単独で出土した。

# 8 木簡の积文・内容

## 大阪・観音寺遺跡



(大阪東南部)

- 1 所在地 大阪府松原市西大塚・立部
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)四月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会・勤大阪文化財センター
- 4 調査担当者 大野 薫・中村淳磯・田中和弘・合田幸美・高橋 雅子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 観音寺遺跡は、東除川と西除川に挟まれた瓜破台地と呼ばれる

洪積段丘の南部に位置している。遺跡の南端部は竹之内街道に接し、街道を挟んで南側には丹上遺跡がある。近畿自動車道と歌山線建設にともない発掘調査を実施した。

主な遺構として、奈良時代から中世にかけての建物